

在家仏教講演会 開催ご案内

東京 時間：午前10時～11時30分
会場：中野サンプラザ7階研修室10（中野区中野4-1-1）
会場整理費：700円 お問合せ：03-6684-6692

4月13日（土） 迷いからの脱出—私のオウム事件
楠山泰道 先生 大明寺住職・日本脱カルト協会顧問

4月27日（土） 迷いからの脱出—迷悟不二の世界
山崎龍明 先生 武蔵野大学名誉教授

5月11日（土） 迷いからの脱出
福田亮成 先生 大正大学名誉教授

5月25日（土） 迷いからの脱出
田島照久 先生 早稲田大学名誉教授

6月8日（土） 迷いからの脱出—死生学へのいざない
菅原伸郎 在家仏教協会理事長

6月22日（土） 迷いからの脱出—無所得の救い
竹村牧男 先生 東洋大学学長

9月14日（土） 迷いからの脱出
武田定光 先生 真宗大谷派因速寺住職

9月28日（土） 迷いからの脱出
佐藤 研 先生 立教大学名誉教授

大阪 第3金曜日 午後3時～4時30分
会場：堂島アバンザ5階または14階（北区堂島1-6-20）
会場整理費：500円 お問合せ：06-6346-7000

5月17日（金） 演題未定
田代俊孝 先生 仁愛大学学長

6月21日（金） 聖時間を持とう
真城義麿 先生 真宗大谷派善照寺住職

9月20日（金） 維摩経を読む
西村恵信 先生 花園大学名誉教授

いのち尊し

第24号
いのち尊し
2019年4月1日
公益社団法人 在家仏教協会
〒101-0062
東京都千代田区 神田駿河台3-3 五明館ビル202号
TEL 03-6684-6692
FAX 03-6684-6709

「在家者と伝統について」

菅原伸郎

（在家仏教協会理事長）

本協会に縁が出来てから、在家者として日常をどう過ごすか、たとえば儀礼や行事との付き合い方が気になってきた。出家者や篤信の門信徒には、それぞれの寺院や教団が伝える伝統があるだろう。しかし、宗門やお寺と縁の薄い者はどうあるべきか。改めて原始仏典をひも解くと、今日の冠婚葬祭などの仕来りや積尊から伝わるものとも思えないし、多くはインドや中国や日本の民俗ではないか、といった疑問も出てくる。

*

在家の仏教者として思い出すのは、東京大学教授だった玉城康四郎先生である。最晩年のころに東京・杉並のご自宅へ何度か伺ったが、玄関を開けると、正面に一尺ほどの石膏像が飾ってある。初めのとき、迎えに出られた先生に

「これ、ソクラテスですね」と尋ねると、にっこりうなずいて「ロンドンの古道具屋で見つけたんだ」とおっしゃった。まずは人類普遍の知性を大切に、という姿勢だったようだ。

書齋も見せていただいた。蔵書がうず高く積まれて足の踏み場もない。立派な仏壇などは見当たらず、床の間に小さな黒光りする観音像が飾ってある。「毎朝、この前に座って禪定をするんだ」とのこと。そして像の後ろには「天鼓自鳴」と書かれた色紙が掲げてあった。あとで調べると、法華経分別功德品第十七の言葉で「天のつづみ、自ずから鳴る」と読み、さらに「妙なる声、深遠なり」と続いているらしい。

『現代語訳 正法眼蔵』全六巻（大蔵出版）などの著作もある先

生だが、といって曹洞宗や法華経にこだわっていたようでもない。一九九九年に八十四歳で亡くなられたが、遺言によつて葬儀は自宅近くから真宗のお寺さんを招いて質素に行われた。伝統を全否定することはなかったが、法名は生前に自分自身で工夫されていた。

*

積尊は二十九歳のとき、王子の地位を捨てて一介の沙門とされた。まさに裸一貫だったから、立派な袈裟も身に着けておられなかったろう。成道後も托鉢と観想を続けるが、日常はバラモン教の遊行者と似ていたらしい。弟子たちには出家を勧めたようで、かくて仏道を学ぶ者は家を捨てて妻帯しないことが正道となる……。

しかし、わが法然上人は《ひじり（聖）で（念仏を）申されずば、め（妻）をまうけて申すべし。妻をまうけて申されずばひじりにて申すべし》（和語燈録）と教えられた。妻帯しなければ仏道に生きとらわれないなら妻帯しなさい、形式にとらわれないことではない、という

ことだろう。その自由な生き方を教えられた親鸞聖人が結婚したことは周知のとおりである。

*

私たちの協会に難しい作法はない。ただ、講演会の冒頭に「三帰依文」を一同で唱えることは続けてきた。呪文のようにも聞こえるが、玉城先生の『仏教の根底にあるもの』（講談社学術文庫）によれば、華嚴経なら「帰依三宝」に当たり、次の誓いになる。

《自ら仏に帰依してたてまつる。当（まさ）に願わくば、衆生と共に、大道を体解して無上意を発（おこ）さん》

《自ら法に帰依してたてまつる。当に願わくば、衆生と共に、深く経蔵に入りて智慧海のごとくならん》
《自ら僧に帰依してたてまつる。当に願わくば、衆生と共に、大道を統理して一切無碍（むげ）ならん》

その解説で、玉城さんは《まず重要なことは、菩薩ひとりではなく、つねに大衆と共に行動しようとしていることである》と書いておられた。私たちの集まりも、伝統を尊重しつつも在家者は在家者らしく、でありたいものだ。

この一冊

岡 檀著『生き心地の良い町』（講談社）―この自殺率の低さには理由（わけ）がある

常包芳樹

（在家仏教協会会員）

自殺で家族を失った遺族の悲しみに共感を寄せていた著者は、徳島県の田舎町（旧海部町）が自殺希少地域であることを新聞記事で知る。統計データの信頼性を確認し、さっそく現地を訪れ実地調査を開始する。分析視点は、町の歴史、自然環境に留まらず、人間心理の内面にも及んでいく。社会学のレポートの書であるが、随筆的な味わいも残る一冊。二〇一三年発刊後、十五刷と版を重ねているようだ。

旧海部町の人々との面談や隣接する町へのアンケート、更に徳島県内で自殺多発地域とされる町へも赴き、問題の核心に迫っていく。調査結果から海部町の特徴点を導き、自殺を抑制していると思われる因子を整理していく。そしてへゆ

読者からの手紙

島菌先生のお話を伺って

上村隆利
（在家仏教協会会員）

東京会場で開催された島菌先生講義の講演「宗教と労働―通俗道徳と浮世の思想」を伺った。先生は、宗教と労働との関わりとして、プロテスタンティズムと日本の仏教をあげられた。

マックス・ウェーバーの「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」は、近代資本主義の宗教的な支柱がカルヴィニズムの天職と世俗内禁欲にあったとする。これは、カトリックの修道院内での「祈り、働け」の生活に見られる「世俗外禁欲」でなく、日常の労働により、救いの確証を求める「世俗内禁欲」の倫理が実践されたことが重要であるという。

一方、日本では江戸時代に「勤勉、儉約など通俗道徳の実践による救い」という考え方が広がり、労働の宗教的な支柱となった。これが、近江商人などの活躍を生み、明治以降の経済発展につながったとみる。

日本における仏教は、鴨長明の「方丈記」にみられるように現世否定的な無常観を伴っており、「うき世」とむすびついてくる。「うき世」とはもとも「憂き世」だったが、それが次第に、世を生きたことは「浮かんている」ことと意識され、さらには、井原西鶴に代表される現世肯定的で享乐的な世界へと繋がっていったとする。

しかし、島菌先生が言われるように、現代においては「労働は社会の一員としての自己実現」といった幸福な労働観には限界がみられ、多くの人は自分が組織の歯車の一部としか感じていない。これに長時間労働が加わることによって心が病み、過労死などを引き起こしていると思う。

ただ、社会の価値観や仕組みが変化していく中では、効率至上主義や分業化など企業の論理さえも一瞬に陳腐化する。そして、この変化を肌で感じるのは現場に一番近い労働者かもしれない。この変化を捉えるためには、仏教の聖たちがこの世のはかなさを感じる中にも和歌や文芸など遊び心を忘れることがなかったように、仕事の中にも楽しみを見つけてたくましさも必要かなと思った。

ご寄付のお願い

当協会は、東京、大阪にて講演会活動を行っておりますが、その多くは寄附金によって賄われております。講演会の存続のために温かいご支援をお願い致します。

協会への寄附金は税制優遇が受けられます。個人様からの寄附と法人様からの寄附について、事例を上げてご案内いたします。

★所得税
所得金額から「寄付金(所得金額の40%が限度)ー2,000円」を控除することができます。

事例
年中の総所得金額が500万円、寄附金の合計額が20万円の場合
20万円ー2,000円＝19万8,000円が、総所得金額より控除されます。

★法人税
法人が支出する寄付金は、その法人の資本金等の額、所得の金額に応じた一定の限度額までが損金に算入されます。このとき、公益法人に対する寄付については、一般寄付金の損金算入限度額とは別に、別枠の損金算入限度額が設けられております。

るやかにつながる×人物本位をつらぬく×監視ではなく関心×弱音を吐かせるリスク管理術、など、生き心地の良い町の秘訣を提言していく。聞き取ったエピソードが随所に紹介されているので、人間観や住環境など具体的に分かり易い。その中で一点印象に残った指摘を紹介したい。

著者自身も意外であったと記しているが、海部町では自分を「幸せ」と感じる比率は、他の町に比べてむしろ低くなっており、「幸せでも不幸でもない」と感じている人々の比率がもつとも高かった。ここから著者は、幸せでなくなった時の対処の仕方が大切で、幸せでなくともよい、というこだわりを捨てた生き方を心地良さのポイントのひとつに挙げる。この見方は、苦からの解放を課題とする仏教の考え方と通底すると感じた。旧海部町には寺や神社が多く、狭い町の中を歩くとすぐ寺に行き当たるようだ。筆者は人々が気楽に立ち寄れる場所としての寺社の機能に言及している。

事例

資本金が10億円、年中の所得金額が1億円の場合

- ①一般損金算入限度額Ⅱ（10億円×2.5/1000）＋（1億円×2.5/100）×0.25＝125万円
- ②別枠の損金算入限度額Ⅱ（10億円×3.75/1000＋1億円×6.25/100）×0.5＝500万円

したがって、①②の合計額625万円の損金算入が認められます。

在家仏教通信

東京会場では4月より連続講演会「迷いからの脱出」を開催します

人間はだれでも心の底に迷いや不安を抱えています。悪魔とも無明とも呼ばれます。呪術や占い、そしてオウム真理教事件もそこから育ってくるのかもしれない。仏教はどう教えてきたか、ともに学んでいきましょう。

講師には、楠山泰道（大明寺住職）、山崎龍明（武蔵野大学名誉教授）、福田亮成（大正大学名誉教授）、田島照久（早稲田大学名

誉教授）、竹村牧男（東洋大学学長）、武田定光（因速寺住職）、佐藤研（立教大学名誉教授）ほかの諸先生にお願いしております。

協会ホームページに講演会動画をアップしました

労働の場と個の確立

本多弘之先生

（親鸞仏教センター所長）

※ID …各会員番号
パスワード：zaikubukyo

「大法輪5月号」へ在家仏教講演会の講演録が掲載されました

宗教と労働を考える

菅原伸郎
（在家仏教協会理事長）

数年前から、日本人の働き方に関する議論が起きています。電通のエリート社員であった女性が長時間勤務の果てに死を選びました。過労でNKHの女性記者が亡くなり、先日は野村不動産の社員の自死に関するニュースもつたえられています。痛ましい限りです。その一方で、日本人の勤勉さ・・・

原稿をお待ちしています

◇随想「仏教と私」（八百字以内）
人生を振り返って仏教と出逢ったときの感動をお書きください。

◇読者からの手紙（八百字以内）
講演会（講演録）の感想などをお書きください。

◇コラム「この一冊」（八百字以内）
感銘を受けた書籍を紹介してください。新刊だけでなく、思い出の本も歓迎します。著者名、出版社名、発行年を忘れずに。

*
原稿用紙またはメールに添付して、左記宛てにお送りください。住所、氏名、電話番号、よろしければ職業と年齢もお書きください。読みやすくするために、あるいは編集上の都合で、趣旨を変えない範囲で削ったり直したりする場合があります。採用分には薄謝をお送りします。原稿の送り先は、〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-3-202 在家仏教協会「いのち尊し」係。メールはkaminimura@zaikubukkyo.comまで。